

# GINGA REPORT 401

No.74  
2021.07

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和3年7月1日  
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム  
電話：059-355-2700

## 7月の星空

星図：ステラナビゲータ9/(株)アストロアーツ

### 春と夏の夫婦星

7月15日21時の星図

### 走れアークトゥルス

7月は春と夏の星座の両方を楽しむことが出来る、一つで二度おいしい星空です。西の空には、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカ、しし座のデネボラを繋ぐと出来る春の大三角。対して東の空から昇ってきたのは、こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブで、三つを繋ぐと夏の大きな大三角が出来上がります。

このうち、こと座のベガとわし座のアルタイルは、七夕の織姫、彦星として知られています。この二人は、仲が良すぎるがあまり、それぞれの仕事を放り出してしまったため、天の川の両岸に離れ離れにされてしまった悲恋の夫婦です。

夏の空で輝く夫婦の星たちに対し、実は日本では、うしかい座のアークトゥルスとおとめ座のスピカも春の夫婦星（めおとぼし）として親しまれていました。アークトゥルスは強いオレンジ色の輝きから男星、スピカは純白の輝きから女星（おなごぼし）とされていたそうです。



あまり有名ではない春の夫婦星も、その愛情の深さはなかなかのものなのかもしれません。なんとアークトゥルスは愛しの妻スピカの方に向かって、空を全力疾走しているのです。

恒星は、永遠に同じ位置で輝くと思われがちですが、実は星空の中を少しずつ動いています。その中でも特に動きが速いのがアークトゥルスで、高速度星と呼ばれます。5万年後にはスピカのすぐ近くで輝いて見えるんだとか。遠い将来には、春の夫婦の方がラブラブに見えるかもしれませんね。

### さそり座

南の空には、さそり座のアンタレスが見つかります。大きなS字のカーブが美しく、頭からしっぽの先までなぞるのが楽しい星座です。中心に輝く赤いアンタレスも見もので、さそり座は夏の星座としてよく知られていますが、空の低いところで輝くため、楽しめる期間はあまり長くありません。今のうちに探してみましょう。

## 7月のガリレオ教室

### 夏の星座を知ろう

夜21時ごろになると、夏の大三角が見えてきます。夏の星座の探し方から、その星座のお話まで、夏の空の楽しみ方を学んでみましょう。

日時：7月11日(日)

① 11:00~11:20

② 14:00~14:20

場所：5階 コズミックラウンジ

料金：無料

定員：14名



## 今月の天文トピック

### 7月13日は日本標準時制定記念日

日本の時刻制度は江戸時代までは各地の地方時で行われており、日本国内でも時差がありました。明治時代に入り、電信や鉄道などの新しい技術が導入されるにつれ、国内各地で別々の時刻を使用するのは非常に不便になり、電信局は全国で東京時刻を使用、また気象台では全国で京都時刻を使用することにしました。

しかし、明治17年(1884年)アメリカで開催された国際子午線会議で、各国はできるだけ子午線の度数が15度の整数倍の所の地方時を使用することが決定。そこで日本でも明治19年(1886年)7月13日に、勅令「本初子午線経度計算方及標準時ノ件」が公布され、兵庫県明石市を通る東経135度の子午線が日本標準時と定められました。これを記念して7月13日が日本標準時制定記念日とされています。

日本標準時子午線(東経135度の線)上にある明石市立天文科学館→



## 博物館主催 スターウォッチング

### 博物館主催さらら号観望会

日時：7月24日(土) 20:00~21:30

場所：博物館前市民公園

内容：夏の大三角を見よう



## 編集後記

日本標準時子午線上にある明石市立天文科学館は、時間と天文学の大きな関わりを学ぶことが出来る貴重な施設で、天文ファンなら一度は訪れたい場所です。

明石を訪れる際、忘れずに見て欲しいのはマンホール。明石市立天文科学館の外観がデザインされていて、「しごせんのみち」と書かれています。子午線上に立って写真を撮るのもおすすめです。

## 7月の月

2日  下弦

10日  新月

17日  上弦

24日  満月

31日  下弦

※当日受付・参加無料です。  
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)  
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。